

# 一貫教育

新篠津の子どもたちの明るい15の春を目指して

～ 新篠津小中学校 一貫教育推進員より ～

## よろしくお願い致します！

今年度、新篠津村における一貫教育を担当させていただきます一貫教育推進員の福山和彦（中）と中川幹彦（小）です。子どもたちの義務教育9年間でより充実したものとなるように努力していきたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。



一貫教育推進員（中）福山 和彦



一貫教育推進員（小）中川 幹彦

## 漢字、算数・数学、英語検定への挑戦、スタート！

これまで中学校で実施していた各検定でしたが、昨年度は「算数・数学検定」を小学校にも案内し実施しました。令和3年度は、「漢字」、「算数・数学」、「英語」の3種類の検定を小学校でもご案内します。それぞれの検定日は、下記の通りとなっています。ご家庭でも、ぜひ、子どもたちに挑戦するよう背中を押していただければ幸いです。よろしくお願い致します。

それぞれの検定は、近づきましたら別途、ご案内申し上げます。

○日本漢字能力検定	10月23日（土）
○実用算数・数学技能検定	① 7月18日（日） ②12月4日（土）
○実用英語技能検定	① 5月29日（土）：1次 6月27日（日）：2次 （案内済）
	②10月 9日（土）：1次 11月 7日（日）：2次
	③ 1月22日（土）：1次 2月20日（日）：2次

# 小中一貫教育の効用とは？

全国的に小学校・中学校の連携をより一層強めた、「小中一貫教育」を進める学校が増えています。この背景には、中学校に入学した後に増える不登校生徒の増加や、複雑化する課題に対し学校単独では解決が難しくなっていること、また、子どもたちの成長が早まり、今まで中学校で指導していたことが小学校でも必要になってきていることなどがあげられています。

では、小中一貫教育には、どのような効用があるのでしょうか？

## 1. 上級学校への児童生徒の円滑な移行のため

全国で中学校入学後につまずく生徒が多くなる傾向が見られるようになりました。「中一ギャップ」と言われるものです。小学校では一人の担任の先生が全教科を教えますが、中学校では教科によって先生が代わります。また、今まで体験したことのない部活動が始まり、授業の仕方も大きく変わります。このため、小学校と中学校で共通の学習ルールを定めたり、部活動の様子を見学したり、中学校の先生が小学校に来て授業をする「出前授業」を実施したりすることで、新しく始まる中学校生活に適応しやすくすることができます。

## 2. ゆとりと連続性のあるカリキュラム

小学校・中学校それぞれの学年で学ぶべき内容が決まっています。その中には、子どもたちがつまずきやすい学習もあります。それを小学校・中学校の義務教育9年間で、小学校・中学校の学習のつながりを意識しながら指導したり、一人一人の児童生徒のつまずき・弱点を引き継ぎながら指導したりすることで、子どもたちの苦手な部分の改善、指導の継続につなげることができます。

また一方では、児童生徒の得意な分野や能力を更に伸ばしていくこともできます。

## 3. 長期にわたっての生徒理解と指導

小学校1年生から中学校3年生までの「義務教育9年間」を意識しながら、一人一人の子どもたちの特性や成長を見ていくことで、より子どもたちの立場に立った生徒指導や特別支援教育を長い時間をかけて継続して行うことができます。

## 4. 教職員の意識改革と学校運営

小・中学校それぞれに、これまで長く培われてきた独特の文化があります。小学校と中学校が互いの授業や学校運営について交流し理解し合うことで、互いに学んだり、改善したりすることができます。このため、学校の運営方法の見直しや先生たちの資質向上につなげることができます。

## 5. 学校・家庭・地域社会の連携強化

地域には、施設・人・土地などの教育的な財産がたくさんあります。小学校と中学校が9年間でそれらの活用を図ることにより、無駄なく有効な活用を図ることができます。